

探すわけ。②段落に発見するだろう。

「その身体は、誘惑の客体として、視線の持ち主Ⅱ男性主体から、評価され、比較され、値踏みされる。」

☆構文を**変える**、という技法を使って、主語を変え、少し言葉を補ってみる。

「視線の持ち主Ⅱ男性主体Ⅲ、女性の身体Ⅳを性的な魅力があるかどうか、評価し、比較し、値踏みする。」

これで意味がはっきりしたと思う。「視線」を説明するには、もう一度、☆構文を**変えて**、

「女性の身体を性的な魅力があるかどうか、評価し、比較し、値踏みする**視線**とすればいい。」

次に「内面化」とは何か。これは直接言い換えられているところはないが、ここで論旨をふまえてかみ砕くことはできる。文字通り、外側にあるものを、内面にあるものにしてしまう、ということだが、ここでは、外側とは他者（の見方）であり、内側とは自分の心である。他者の見方を自分の考えにしてしまうこと、といった意味ととらえておいて、答案を作ってみよう。

「解答例1」「女性の身体を性的な魅力があるかどうか、評価し、比較し、値踏みする男性主体の見方を、女性である自分の見方にしてしまうこと。」

原文をそのまま使わずに、短くすることもできる。

「解答例2」「身体に対する他者の評価を、自分自身の評価にしてしまうこと。」

少し違う例も書いておこう。

「解答例3」「男性主体が性的な対象として価値があるかどうかを評価しようとして女性を見る見方と同じ見方で自分自身の身体を評価するようになっていくこと。」

④ ● 自己身体がたまたま性的に高い価値を持っている場合でも、自己身体との関係は容易ではない。自分のコントロールできない価値を一方的に付与されることで、男性の欲望や賞賛に対する依存が起きる。誘惑の客体としてつねに他者に依存しつつ自己確認をするほかに嗜癖を、わたしたちはまちがってニンフォマニア（多淫症）と呼んできた。まことにラカンのようにおり、欲望とは「他者の欲望の欲望」、すなわち欲望されることの欲望なのだ。

▽もう、この語り方の意味はわかってきただろう。つねにオトコどもの視線を一身に浴びているオンナがいるとする。彼女はやがて、そのオトコどもの視線（欲望）の期待に応えることでしか自分を保てなくなる。つねにオトコに媚びを売り、オトコの欲望に身を任せていくようなオンナは、性的な欲望が多すぎる（Ⅱ多淫症）のか。いや、その欲望は、もともと彼女のものではなく、他者Ⅱオトコのものである。オトコに欲望してもらいたい、というのが、彼女の欲望なのである。

⑤ ● 衣服や化粧は社会的な記号だが、その気になれば着たり脱いだりすることができる。だが裸のボディは？ 裸体が社会的な記号として、市場価値を付与されることになれば、市場の規範に合わせて自己身体をコントロールしなければならぬ。ダイエツトやシェイプアップはそのようなセルフ・コントロールの表現であり、自己身体が社会に馴致されていることの証明である。極端な肥満はそれ自体でセルフ・コントロールの失敗をあらわし、非難の対象となる。ここでは◆2身体が人格なのだ。

◆問2「身体が人格」であるとはどのようなことか。

☆なんや、そのままやんか式、を適用すると、

「身体とは、人格のようなものである、ということ。」となる。が、「人格」のいいかえは見つからない。では、ここでは「身体」とはどのようなものか、この段落を調べ、「身体」が含まれている文を検討してみよう。

「市場の規範に合わせて自己身体をコントロールしなければならぬ。」

これはどういうことか。☆構文を**変える**、を使ってみよう。

「身体とは、市場の規範に合わせてコントロールしなければならぬもの。」

つまり、「身体は、社会的な規範に合わせたコントロールに成功したか失敗したかを表現している」のである。もちろん、コントロールできた人間は、できなかった人間よりエライと見なされる。

「解答例」「身体が、自己身体をコントロールできたかどうかという、当人の人間的な価値を表現するものになっているということ。」

※アメリカのビジネスマンは太っていたら評価が下がるという話を聞いたことがある。それで彼らはせつせとジムへ通う。女性的身体ではないが、これも、身体コントロールⅡ努力の成果、という見方の延長線上にある。

⑥ ● 身体の他者性が自覚化されれば、作家の斎藤綾子のように言い放つこともできる。わたしはウェットスーツを着るようにたまたま男から見ても魅力のある女のボディを着ているだけだ、と。このボディを投げ出せばおもしろいように男が寄ってくる、わたしはその雄の発情につけこむが、それはわたしの与り知らぬことだ、と語る斎藤には、自己身体とのクールな距離がある。

⑦ ● もしボディがウェットスーツのように自由に着脱のできるものであったら。そしてウェットスーツのように望ましいボディをオーダーメイドすることができたなら。—— 身体の他者性の彼方には、こうした究極の欲望が潜んでいる。

▽「身体の他者性の自覚」とは、どうせ、この身体を欲望しているのは、私ではなく、他者であるオトコどもである、と見なすことである。なんで、こんなものにヨクボーするのか、私は知らんけど、利用できるならしてやろっか、という感じだ。これは娼婦の感覚にも似ている。身体の自由な着脱、というのは、身体の利用、ということだ。完全にコントロールできる身体が究極の欲望であるということは、コントロールできない身体に苦しんでいる現状の裏返しである。ここまでは、女性の身体の話。

⑧ ● 女性が「視られる」存在として身体性へと還元されているとしたら、男性は、他者から「視られる」ことがないために、自己身体を「発見」してもらおうこともできない。言い換えれば【読2】女性**は**身体へと疎外され、男性**は**身体から疎外されている、と言ってもいい。視線の政治学における男性のまなざしの優位は、やがて「視る」ことだけを確保して「視られる」危険を冒すことのない欲望へと向かう。覗き屋もしくは窃視症の欲望である。カメラという技術文明の産物が登場することによって、「視る」ことの欲望はファインダーの背後に完全に身体を消去することによって完成された。写真家と同一化する顧客は、被写体から「見返される」危険、すなわち自己身体**の**客体化の危険を冒す必要がない。だがそれは、自己身体を「発見」してくれる他者をついに持てないことと同義でもある。したがって男性は自己身体を発見していない

だけでなく、自己身体と◆3 関係することもできない。これは視線の政治学が男性に主体の位置を与えたことの代価である。

▽男性⇨自己身体を(他者に)発見してもらうことがない十(自分も)発見することがない。この要点をとらえる。政治学という比喻は、だれが主体となってだれを支配するのか、というほどの意味である。

◆問3 「関係すること」ができないのはなぜか。

「したがって」という接続詞をおさえる。すると直前に目がいくだろう。

「それは、自己身体を発見してくれる他者をついに持てない」と同義でもあるから。「(自己身体と)関係するとは、自分の身体を見えてくれる他者を持たないという意味だということになる。」

次に「それ」の指示内容をおさえる。

「身体を消去することによって、視ることだけを確保し、視られる危険を冒すことがない状態を実現すること。」

「解答例」 「身体を消去することによって、視られる危険を冒すことがない状態を実現したため、自分の身体を見えてくれる他者を持たないから。」

⑨ ●男性はどうかやって自己の身体を発見することができるのだろうか？ 自己身体との折り合いのいい関係は、男性にとっても課題である。だがどうすれば自己身体を「発見」してくれる他者の視線を持つことができるのか？ ゲイの男性以外に、自己身体を客体化は、男性には難しそうである。あるいは異性装者の男性は、女装によってつかのまだけ、身体を「借り着」しているのかもしれない。

▽原理的には(自己⇨自己身体⇨他者)という三角形が成立しないと、自己身体を(発見⇨確立)することはできないようである。オナナは自分の背中と尻を当てられるが、オトコは当てられない、という事実があるが(以前テレビで実験しているのを見た。それを信用するならば、ということだが)、その理由は、オトコには見えてくれる他者がいないからなのである。ここまで(⑧⑨)は、男性身体についての一般論。

⑩ ●だが性の市場のなかでは、思った以上に早いスピードで、**「読3」身体**の記号化は男女を問わず進行しているようにも見ええる。若い男の子たちも「視られる存在」としてのナルシス的な自己身体との関係を生きているかのようである。男性が女性によって選ばれるようになったという時代の動向だけではない。たしかに『anan』の男性ヌードは、男が考える「男らしい」ヌードではなく、若い女性の好みを反映してもいた。体毛のないすべすべしたボディ、汗くささや臭いを感じさせないクリンなボディ、スリムで少年のような性差の少ないボディ——総じて「男性性」の脅威を感じさせないボディの持ち主が選ばれている。ここにはジェンダー差の縮小だけでなく、従来型の男性役割への拒絶と、男としての成熟拒否とがある。

▽ここから、最近の変化。「見られる男」「見る女」の例である。「見られる男像」は、従来型の男性を感じさせず、男として成熟していないことが好まれる。

⑪ ●女性同様、消費市場での身体の客体化という趨勢を男性も逃れようがないという意味で身体の「男女平等」が不可避に進行しているのだろうか。外出前に全身を点

検し、ダイエットとシェイプアップに余念がなく、ディスコではパートナーなしで鏡の前で自己陶醉しながら踊りつづける男の子たち。「女の目」がなくても彼らはそうするにちがいない。ダイエット症候群の少女たちとおなじく、望ましくないボディの持ち主の場合には男の子もまたそれと格闘しなければならず、そのうえ女の子がって身体の悩みをあらさまに自分にも他人にも認めることさえはばかられる。逆にナルシズムの身体を持ち主の場合であれば、女性の場合と同様、他者の視線と賞賛への依存が始まる。身体はどちらにころんでも「他者に属している」のである。

▽男性身体にも、女性と同じことが起きている？ これは女性における身体への自己疎外と同じである。女性より孤独に悩まなくてはならないかもしれない。⑩⑪は、最近の変化の問題指摘。

⑫ ●こういった自己疎外のない、身体との折り合いのいい関係はあるだろうか？

あるとしたらエコロジストのボディにちがいない。わたしがただこうしてあること、食べて呼吸をして排泄して生きていくこと、そのことがキモチイイと思えるような身体を持ち主。自分の身体を他者に依存するのではなく、自分自身で意味づけることができるような自己充足的な身体を持ち主。身体のユートピアというものがあるとすれば、玄米ご飯を食べたら今日も健康なうちが出た、なんとわたしのボディは美しいのだろうか、と思えるような自己充足的な身体であろう。もしそのような自己充足的な身体との関係を、社会との介在なしに持つことができれば、そういう身体はもはや社会的な存在ではないから、オナニスト的な身体と同じく、エコロジカルな身体とは**「キーワード」の単身化**のもうひとつの回路かもしれない。

▽**「キーワード」の変化**、に注目。「エコロジカルな身体⇨自己充足的な身体」という解決策の検討が⑫と⑬。「他者に依存するのではなく」「社会との介在なし」というのが条件である。「オナニスト的な身体」についてはこの文章中には説明がない。しかし、エコロジカルな身体との共通性から考えて、他者に依存することなく、自分で自分の身体にきもちよさを与えるような身体、ということだと推定できる。

⑬ ●だがオナニスト的な身体が高度資本主義に適合的な単身者としての身体のあるかただとしたら、わたしたちはエコロジカルな身体が同じように資本主義の副産物、もしくは補完物であり得る可能性を疑ってみることもできる。エコロジカルな身体が自己の価値を表現するとき、それは資本制的な身体からの示差として◆4 逆説的な市場価値を与えられるのではないか。もしくはそのような市場的な価値の発生をエコロジカルな身体を持ち主はじゅうぶん自覚し計算に入れていないか。加藤まどかの秀逸な分析によれば、「身体」をめぐるメディアの言説の中では「知性」も「教養」も「エコロジー」もすべて「外から」、すなわち身体によって測られる。本を読むのは「内側からきれいになる」ためであり、教養を身につけるのはそれが「外へにじみでる」からである。有機栽培の野菜を食べるのは「美しい肌を保つため」である。非市場的な価値もまた、市場的に評価される。言い換えれば◆5 社会的な記号性を欠いた身体とは、この世に存在しない、のである。

▽「エコロジカルな身体」についての判断が示される。結論は、エコロジカルな身体もまた、市場⇨資本主義という社会によって価値を与えられるものだ、ということである。つまり、エコロジカルな身体もまた、他者から自由ではない。他者から自由な

身体はない、というのがここまでの結論となる。

◆問4 「逆説的な市場価値」とはどのような価値か。

おなじみ(?)の「逆説的」がついた言葉の説明だ。《逆説的》は、「一見ほんとうじゃないようだが、じつはほんとうだ」というほどの意味だ。「エコロジカルな身体」は、自分の身体の価値を他者に依存するのではないものだった。一方、直前で論じられていた「資本制的な身体」とは、自分の身体を他者の欲望に合わせようとしてダイエツトしたり、毛剃りしたりする身体のことだった。エコは資本制的身体に反対する。そんな不健康なことをせずに「エコ」でいこうよ、と非市場的なエコな身体が目指されるわけだ。が、そうしたとしても、それは「内側からきれいになる」的なことを目指すことになる。結局は、新たなエコ的な(非市場的な)「きれいな」もまた、市場の欲望の対象になってしまふ。この事態を「逆説的」といつているのである。

【解答例】「一見、市場的な価値から切り離されているように見えて、じつは市場的ではない点が市場から価値のあるものとして評価されてしまふ価値。」

※「エコ」という言葉は最近流行だが、環境にいい、体にいいというイメージがある。それは、もともと、それ以前の《工業製品》(大量生産、市場主義)的な資本主義的な価値に対する否定として現れたものだ。ところが、どうだろう、最近の製品は、その「エコ」を逆に製品の価値として利用している。市場には《環境や健康に配慮した》商品があふれている。理由はかんたん、そのほうが売れるからだ。欲望は、常に新しく生産される。もはやエコのイメージは市場的になっているといってもいい。

◆問5 「社会的な記号性を欠いた身体」とはどのような身体か。

▼キーワードサーチ。「社会」「社会的な記号」という用語は既に出てきているぞ。それを探す。

⑤「裸体が社会的な記号として、市場価値を付与されるとなれば、市場の規範に合わせて自己身体をコントロールしなければならぬ。」

だから、社会的な記号性を帯びている身体とは、《市場の規範に合わせてコントロールされ、市場価値を与えられた身体》ということになる。しかし、ここで訊かれて

いるのは、そうではない身体である。

⑫「もしそのような自己充足的な身体との関係を、社会との介在なしに持つことができれば、そういう身体はもはや社会的な存在ではない。」

つまり、こういう身体のことである。自己充足的な身体、だけでも外れてはいないが、社会というキーワードを入れて、その関係の中で説明したい。☆Aではなく、B型、を利用すると書きやすい。

⑫「自分の身体の価値を他者に依存するのではなく、自分自身で意味づけることができるような自己充足的な身体」をそっくり利用するといひ。「社会との介在なしに」という語句を使っても書ける。「欠けた」とあるが、ここでは悪い意味ではないので注意。

■読解問題1 「身体は他者である」といえるのはなぜか、説明しなさい。

直後に続く部分が答えだが、答案にするには、よく理解しなければならぬ。「身体もまた鏡像によって選びようのない与件として自己に与えられる。身体は「視られる」ことよつてのみ「発見」される。」

とりあえず、傍線部を合体させると、

「身体は、選びようのない与件として自己に与えられ、視られることよつてのみ発見されるから。」

他者である、というのは、自分に属していない、自分のコントロールの外にあるという意味だ。ここで起きていることをどのように書けばいいか。☆なぜ型↓どのように型、を応用せよ。自分は自分の身体をどのように認識するのか。このように問いを立て直すとき書きやすい。構文も、「自己」を主語にして書くといひ。

【答案例】「自己は、自己の身体を、鏡像として見るこつによつて初めて発見し、選

びようのないものとして受け取るしかないから。」(60字程度)

■読解問題2 「女性は身体へと疎外され、男性は身体から疎外されている」とはどのようなことか、説明しなさい。

「疎外」の説明もよく出るねえ。「貨幣への疎外」「貨幣からの疎外」とかいふものもある。「疎外」は、仲間はずれ、だが、もつと広く、何が自分の思い通りにならない(ので苦しい)状況を指すと思つておくといひ。女性は自分の身体が思い通りにならない、男性も思い通りにならない、でも、両者の疎外の状況は異なつていひ。該当箇所をチェックし、整理する。これは☆整理する型、の設定だ。☆きれいに對比するよつに、という点にも注意。当然直前が使えり。

「女性が「視られる」存在として身体性へと還元されているとしたら、男性は、他者から「視られる」ことがないために、自己身体を「発見」してもらうこともできない」男性の方は、ほとんどこのままでもいいが、女性の方は、ここまでの議論を踏まえて簡潔に説明し直す。男性の方の説明と對比されるように書くとき書きやすいかもしれない。「疎外」は悪い状態を示す言葉なので、否定的なニュアンスで書く方がよい。

【答案例】「女性は、自分の身体を、つねに他者から見られ、評価されるものとしてしかとらえられず、男性は、自分の身体を他者から見られることがないため、自分の身体を見失つていひ、ということ。」(90字程度)

■読解問題3 「身体の記号化」とはどのようなことか、説明しなさい。

問5にも「記号」が出てきた。『現キー』に「記号」の説明がある。「一定の意味内容を表すもの。言語も記号の一つ。」しかし、身体に意味内容なんてあるのか? 記号というものは、社会の中で共通の意味内容を表すことで機能する。ここで、身体が記号であるとするなら、身体が社会の中で何らかの意味内容を指示するものになつていひるといふことである。前後の例を見ると、男の好みに合つた女性性を示す身体とか、若い女性の好みが反映した、男の『anan』的身体が挙げられていひ。これを見てわかるよつに、それらの身体(記号)に意味を与えていひるのは、他者(見る人)である。☆傍線部を延長して、「性の市場のなかでは、身体が記号化が進行」というところまで見て、市場が身体に市場的価値を与えていひ、と読んでいい。記号の説明は、「よつによつて、価値や意味を与えられるもの」といふ型になる。

☆「よつ化」のとき↓何やそのままやんか式。「身体が記号(的なもの)になること。」文字通りタイプの答案と、前後の文脈を加えた具体化タイプの答案を示しておく。

【解答例1】「身体が、他者によつて価値や意味が与えられるものになること。」

【解答例2】「男女どちらの身体も、市場によつて価値や意味が与えられるものになること。」(40字程度)